

かごしま近代化産業遺産 協働行動計画 概要版



かごしま近代化産業遺産パートナーシップ会議

■策定の目的

この計画は、世界文化遺産登録を目指す旧集成館、寺山炭窯跡、関吉の疎水溝を中心とする鹿児島島の近代化産業遺産を、市民やNPO、事業者、行政などの様々な立場の人々が協力して保存・活用し、県内外にその魅力を伝えつつ将来へ引き継いでいくために策定するものです。

この計画を基に、それぞれの立場で様々な考えを持つ人々が、適切に連携し、より効果的に行動していくことが期待されます。近代化産業遺産の保存・活用を通じた鹿児島島の活性化を目指し、この計画をみんなで実行していきましょう。

POINT

- ① 計画を基にみんなで連携！
- ② 歴史を学び、守り、伝える！
- ③ 近代化産業遺産を活用して鹿児島を活性化！

■目指す地域の姿

近代化産業遺産を生かした地域活性化の将来像として「目指す地域の姿」を定めます。

1. 学び、守る ～斉彬公の夢を受け継ぐ～

島津斉彬公が強く豊かな薩摩と日本を目指し集成館事業に取り組み、様々な人々はその志を受け継ぎ、日本の近代化の原動力となったように、子どもから大人まで、近代化産業遺産に触れ、価値を学び、先人の想いに共感し、自分の言葉で後世へと語り、地域が一体となって遺産とその夢を受け継いでいます。

2. 触れ合い、生かす ～交流のまちを今へ～

かつて、薩摩が海外との南の玄関口として、交流を通して新しい文化や技術を育んできたように、国内外から多くの人々がかごしまを訪れ、近代化の歴史や人と触れ合い、ファンとなるとともに、近代化への歩みを学ぶことが、人材育成やビジネスにつながるなど、「今と未来」に生かされています。

3. 担い、つながる ～人の和で行動の輪を拡げる～

集成館事業が、和と洋のそれぞれの良さの組み合わせや、藩の枠にとらわれない考え・行動により、日本の近代化へとつながったように、多くの個人や団体が、心や力を一つにしなが、近代化産業遺産を核としたまちづくりのために、それぞれの良さや強みを生かした活動を展開し、パートナーシップと行動の輪が、県内外に広がっています。



明治5年の磯地区（尚古集成館蔵）



現在の磯地区

「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」

明治期の日本が非西洋地域で最初に産業国家としての地位を確立したことは、世界の歴史から見ても特筆すべきことです。造船、製鉄・鉄鋼、石炭産業といった分野において、当時の日本は西洋から積極的に技術を導入すると同時に、日本の在来技術を応用することによって急速な産業化に成功しました。鹿児島その他、岩手、静岡、山口、福岡、佐賀、長崎、熊本の8県 11市にまたがる遺産群は、このような日本の産業化の過程を証言する貴重な産業遺産です。

POINT

- ① 非西洋地域で他に先駆けて産業国家としての地位を確立！
- ② 単に西洋の技術を受け入れるだけでなく、日本の在来技術を応用！
- ③ 日本の「ものづくり」の出発点！

かごしまの近代化産業遺産

鹿児島市において世界遺産登録を目指している「旧集成館」は、江戸末期に始まる薩摩藩の西洋技術導入の試みであり、日本最初の洋式工場群でした。また、水源に乏しかった磯地区に導水することで水力を供給した「関吉の疎水溝」、火力の元になる白炭を供給した「寺山炭窯」、これらの存在があっはじめて、集成館に設置された様々な産業設備の稼動が可能になったのです。鹿児島市の近代化産業遺産はこれだけではありません。薩英戦争時に大きな役割を果たした各砲台跡や、船の帆布を製造した田上水車館など、世界遺産の構成資産とともに守り語り継いでいくべきものが数多く存在します。

POINT

- ① 動力供給源が組み合わさった日本最初の「洋式工場群」集成館
- ② 西洋の技術と薩摩の技術の融合
- ③ 砲台跡、田上水車館など…鹿児島市に点在する様々な歴史文化遺産



旧集成館（反射炉跡等）

大砲の鑄造を目的として建設された反射炉（1857年に建設された2号炉）の基礎が残っています。かつてはこの上に高さ20mほどの煙突がそびえていました。基礎部は薩摩在来の石組み技術により造られ、非常に精密に組み合わされています。



旧集成館機械工場（現・尚古集成館）

1865年に完成し、日本に現存する近代的工場の建物としては最も古いものです。当時から「ストーンホーム」と呼ばれた洋風建築でしたが、基礎の部分では神社建築にもよくみられる亀腹石の手法も用いられています。オランダ・イギリス製の機械や蒸気機関を用いて船舶装備用の部品等を製造していました。



旧鹿児島紡績所技師館（異人館）

技師館は、1867年に日本で初めて設置された西洋式紡績工場である鹿児島紡績所の技術指導にあたった英国人技師の宿舎として建てられました。この時期の日本における西洋風建築として現存する貴重な建物です。



寺山炭窯跡

1858年、集成館の反射炉などの燃料として用いる白炭を製造するために、斉彬の命令により建設された炭窯の跡です。磯地区に近く白炭に適したシイやカシの多い寺山に造られたと言われています。



関吉の疎水溝

集成館において高炉の水車ふいごなどで必要な動力（水力）を得るためのものです。磯まで約7km続き、その緩やかな傾斜角度は江戸時代の高度な技術を証明するものです。現在も一部は水田のかんがい用水路として利用されています。



■取組の方向性

「目指す地域の姿」の実現に向け、「取組の方向性」を5つに分類しています。学習・普及啓発、保存管理・調査研究、受入体制整備、活用・地域活性化、情報発信の5つの枠組みごとに、取組の基本方針、取組の基本的方向等を示します。



①学習・普及啓発（まなんど!）

●取組の基本方針

【学校教育】

- 教室での学習や体験型学習を通じて、かごしまの子どもたちみんなの近代化産業遺産・先人の思いについての理解を深めます。

【市民への普及啓発】

- わかりやすい資料・講座等を通じて、すべての市民が近代化産業遺産について知り、関心を高め、多くの人がある価値について自分の言葉で語れることを目指します。
- 関心の高い市民が、新たな活動の担い手となっていく流れを作ります。

●取組の基本的方向・内容

	基本的方向	内 容	具体的な取組・活動（例）
学校教育	①産業遺産に関する学習の充実	産業遺産に関する授業の促進 産業遺産に関する体験型学習の促進	○授業における副読本「かごしまタイムトラベル」※等の活用
	②教職員への支援	教職員向けの研修の充実 産業遺産に関する補助教材等の充実	○遺産を活用した教育プログラムの検討 ○教職員向け研修の実施・受講者の拡大
市民への普及啓発	①市民の産業遺産の認知・理解の向上	市民にわかりやすい広報の充実 市民向けのわかりやすい講座等の開催 若年層や保護者向けの普及啓発の充実	○県政・市政広報誌、町内会広報誌等を活用した広報 ○産業遺産の視点を取り入れた、まち歩き・勉強会等の開催
	②さらなる市民の参画	新たな活動の担い手の創出	○成人式等での普及啓発

※「かごしまタイムトラベル」
鹿児島県が小学5、6年生向けに作成した副読本。集成館事業を中心に、日本の近代化に鹿児島が果たした役割等について分かりやすく説明したもの。





②保存管理・調査研究（まもっど!）

●取組の基本方針

【保存管理】

- 磯地区等に残る日本最初の洋式工場群「集成館」の遺産は、日本の近代化に大きく貢献した歴史上重要な遺産であり、適切に保存管理を行っていきます。
- これらの遺産の文化財としての価値を次世代へ確実に継承していくため、市民の理解を深めながら、官民連携で周辺環境を含めた保全活動を行っていきます。

【調査研究】

- 近代化産業遺産について、関係機関との連携による計画的な調査研究を行い、研究結果のわかりやすい公表等に努めます。

●取組の基本的方向・内容

	基本的方向	内 容	具体的な取組・活動（例）
保存管理	①産業遺産の保存管理	遺産の保存管理 保存管理に関する助言・協力	○地域住民との連携による遺産の観察・保存 ○魅力ある景観形成に関する市民活動への支援
	②良好な景観の形成	磯地区景観計画に基づく景観形成	○地域住民、市民団体等による清掃・美化作業
	③産業遺産周辺の環境の保全	清掃・美化活動等の実施 来訪者へのマナーの周知	
調査研究	①産業遺産に関する調査研究	産業遺産の官民連携による研究	○博物館等による解説図録等の作成
	②調査研究の公表	研究の紹介・情報共有 成果の展示等の充実	○市民団体が作成するご当地本等による紹介
	③研究への市民参加	非公開資産の公開 市民による研究本の作成 発掘調査の現地説明会等の充実	○発掘調査時の市民向け現地説明会の開催



③受入体制整備（むかゆっど！）

●取組の基本方針

【受入環境の充実】

- 近代化産業遺産への理解をより一層深める展示などを行い、「また来たくなる」環境づくりによって、かごしまのファンを増やします。
- 来訪者を適切に誘導し、安全かつ快適な公開を実現するため、誘導標識・説明板の整備や駐車スペースの確保を進めます。

【来訪者への対応】

- 現状の周遊ルートに加え、海上からの観覧、市民との交流の場づくりなど、魅力的な周遊ルートや仕掛けを検討し、来訪者に対して提示していきます。
- 同時にガイドの担い手の拡大や質の確保、各団体の連携を図るとともに、おもてなし人材の育成に取り組んでいきます。



●取組の基本的方向・内容

	基本的方向	内 容	具体的な取組・活動（例）
受入環境の充実	①施設・展示の充実	産業遺産の理解を深める展示の充実 施設的环境整備	
	②来訪者の誘導・案内	産業遺産を紹介する案内機能の充実 わかりやすい誘導標識・説明板等の整備 駐車スペースの確保・便益施設の充実 歩行環境の改善 関連施設との連携	○観光施設・案内所、駅等での案内・誘導 ○構成資産へ誘導するための標識や価値等をわかりやすく解説した説明板の整備 ○駐車スペースの確保の検討（寺山、関吉地区）
	③交通アクセスの改善	磯地区への自動車流入の抑制 周遊バス等の公共交通アクセス向上 交通アクセス案内の充実	
来訪者への対応	①魅力的な周遊ルートづくり	磯、寺山、関吉地区の周遊ルートづくり 鹿児島中央駅～鹿児島駅～磯地区の回遊性の向上 鹿児島の他の魅力の活用 県外の関連資産との連携 新たな手段（海など）による周遊ツアーづくり	○磯、寺山、関吉地区を巡るツアー、県外の関連資産とともに巡るツアー等の商品化の提案・支援
	②市民との交流促進	来訪者と市民との交流の場づくり	○クルーズ船（桜島フェリー等）による海からの紹介・解説
	③おもてなし	「おもてなし」に関する勉強会等の開催 新たなガイドの育成やガイド内容の向上	○ガイド育成講座の開催やガイド団体間の連携・役割分担
	④ガイドの充実と連携	外国人観光客への対応 各ガイドの連携	



④活用・地域活性化（もりあぐっど!）



●取組の基本方針

- 近代化産業遺産を過去のものとして捉えるだけでなく、豊富な人材を輩出した教育システム、それを実現した先人の想い・知見を応用し、ビジネスでも新たな動きを起こします。
- 産業遺産をテーマにした商品など、鹿児島ならではの魅力ある特産品の開発や販売の強化に取り組むとともに、他の事業などと連携した取組を進めます。

●取組の基本的方向・内容

基本的方向	内 容	具体的な取組・活動（例）
①先人たちの挑戦に学ぶ 新たなビジネス開発、 経営・教育面での活用	集成館事業における挑戦・視点等を現代のビジネスに生かす取組 集成館事業の経営手法等の、現代の企業経営への活用を研究	○集成館事業をビジネスの視点で捉えた研究 ○産業遺産のストーリーを題材にした商品やメニュー等の開発
②特産品の充実	産業遺産をテーマとした商品開発 地元土産品や生産品の魅力向上	○産業遺産を活用したイベントの開催
③関連イベントの充実	歴史や文化等の関連する事業や、遺産のエリア周辺で行われる各種イベントと連携した取組	

⑤情報発信（つたゆっど!）

●取組の基本方針

- 一方向及び双方向の効果的な情報発信を通じて、近代化産業遺産が鹿児島にあることやその価値を多くの人々が知り、実際にかごしまの近代化産業遺産を訪れることを目指します。

●取組の基本的方向・内容

基本的方向	内 容	具体的な取組・活動（例）
①産業遺産についての効果的な情報発信	産業遺産に関する情報サイトの充実 多様な情報発信ツールの活用 観光プロモーションの推進	○ホームページ、フェイスブック、ブログ、ユーチューブ等を活用した旬な情報の総合的な発信 ○「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」を構成する 8 県・11 市の地方公共団体や市民団体と連携したプロモーション活動
②産業遺産を訪れたい双方向の情報発信	市民、来訪者が情報発信者となるような仕組みの構築	○県外各地で行う観光 PR を通じた情報発信



■推進体制



■策定経過

- ・平成 25 年 7 月 第 1 回かごしま近代化産業遺産パートナーシップ会議
- 8 月 第 1 回ワーキンググループ
- 10 月 第 2 回ワーキンググループ
- 10 月 第 2 回かごしま近代化産業遺産パートナーシップ会議
- 11 月 試行イベント①「目指せ世界文化遺産！磯地区バスモニターツアー」
- 12 月 試行イベント②「親子で挑戦！つくろう殿様の望遠鏡」(大学生などによる企画イベント)
- 12 月 第 3 回かごしま近代化産業遺産パートナーシップ会議
- 12 月～1 月 「かごしま近代化産業遺産協働行動計画（仮称）」素案への意見募集
- ・平成 26 年 1 月 第 3 回ワーキンググループ
- 2 月 第 4 回かごしま近代化産業遺産パートナーシップ会議・講演会

かごしま近代化産業遺産協働行動計画（平成 26 年 3 月）

作 成：かごしま近代化産業遺産パートナーシップ会議

事務局：鹿児島市 政策企画課

協 力：株式会社 三菱総合研究所

発 行：鹿児島市

〒892-8677 鹿児島市山下町 11-1 TEL 099-216-1106